

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	烟波吟草五六：文苑
Author(s)	溪川生
Citation	龍南會雜誌， 5 1： 4 9 - 5 0
Issue date	1896-12-05
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4663
Right	

つれなきものは命なり。

かまくらやまのはし月夜、

星どるならふひとく、の、

月のむしろにまじらひて、

たちまふ人のうたてさよ。

さくと見しまにはやもちる、

花にもにたる世のなかに、

なにをたのみに玉のをの、

ながきさかえをねがふらむ。

怨情

すだれかゝげてたをやめは、

けふも終日ながめたり、

たれを去のふのみだれかも、

かぎりえられず見ゆるなり。

烟波吟草五六

獵矢ぬきつくしの海の磯のへにみさこ飛ぶなり射九人もかな
投くる箭の遠さかり行けは阿蘇の山小手かさせと今は見えなく

淋しき浦

ちよのみのちよの羨ことや、

はよそばのはよのみことや、

れもよ父よとたづねわび、

淋しきうらにゆきくれて、

よるべなきさになき沈む、

わらはやあはれみるめかなしも。

荒野乃原

えらたまのわがこやいづら、

なよたけのわぎもやいづこ、

わぎもこあよともとめわび、

あれ野のはらにゆきくれて、

たづきもしらすたちまよふ、

をのこやあはれなみだぐましも。

溪川生

れはろくく 沙霧こむる海中を吳越につく陸の諸山
 手をかさせは海山晴れて月もよし妻よふ千鳥その聲もよし
 白雲の五百重かくれの山のへに君を思ひの雲もありけり
 玄くしろうまゐの夢を破られて角の音白し有明の月
 春草の玄けき思ひも君ゆるゑに萌えいてしとは知らてやあるらん

俳句

被露坊選

野分

満月の奈須野が原を野分哉
牛牽て月になる夜の野分かな

木

岡

菊

寒菊や氷うちわる杓の音
白菊や志賀の都のあれし勝

木

岡

落葉

まつしぐら木の葉ちりゆく井の中
御手洗に落葉のたまる大社

木

岡

井

夕ぐれて一葉ねちけりわが庵は
古井の中に尾花のみだれあいて

女

水

鹿

寒菊の一本咲きぬ井の中
秋もや井げたの苔の枯てけり
十月の山に鹿なく小家かな
丸木橋なくく鹿のわたるらめ

女

塔

女

月

女

月

女

水

女

月

女

水

女

岡

女

水

女

岡

女

塔

女

月

女

岡

女

塔

女

月

女

塔

女

月

女

塔

女

月

女

塔

女

月

女

塔

女

月

女

塔

女

塔